

あすひあ登録団体の紹介

こんな活動を
しています

vol.
20

登録団体の中で取材を希望する団体は
あすひあまでお知らせください。
広報部会の部員が伺います！

「そうぞう」の場づくり スペースまる

「自由に」自分を発見して、
お互いの違いを「おもしろがって」、
×ではなく○が広がっていく場



△ もりやまさんのリードで遊びと表現がつながっていく

「さあ、今日は何をしようか?」と、集まつた子
どもたちとの会話からはじまったスペースまるの

『あむあむ』。子どもの表現クラブとして、未就学児から小学生を対象に月1回のペースで元気村にて開催されています。主宰するもりやまさんは劇団などで演技やボイストレーニングを教えていましたが、「もっと身近な場所で、子どもたちの創造力を育む場をつくりたい!」と、いきなりホームページを立ち上げ、自分の思いを発信することから始めたそうです。

演技指導でもメソッド自体はとてもよく考えられていて、それはそれで十分素晴らしいものですが……と前置きしながらも、「子どもの創造力は無限で、もっと自由にその力を伸ばしてあげたかった」と。また「それにはそれをカタチにしてあげる大人が必要」だと話します。実際に未就学クラスでもお絵描きしながら、どんどん創造力(物語)がひろがっていって、スペースいっぱいに描かれていく様は、本当に“無限”という言葉が相応しい感動的な



△ どんどんお話しは広がって…

ものでした。

スペースまるでは『あむあむ』のほか、遊びながら物語がうまれてくる不思議なワークショップ『Story Play Work』や、大人を対象としたボイスワーク『ZEROvoiceWORK』なども開催しています。詳しいスケジュールはホームページで！ (M)

DATA

活動日●詳細は下記ホームページ、Facebookで

<http://space-0.wixsite.com/maru>

<https://www.facebook.com/space.MARU/>

活動場所●元気村おがわ東、他

連絡先●瀧山 瑞(もりやま はるか) 050-5586-9524

space0maru@gmail.com

はなこ哲学カフェ いどばたのいどほり

哲学対話とは、一つのテーマに沿って様々な人たちと、ゆっくり聞き、話す営みであること。
大切にしていることは「ゆっくり・聞き・変わる」こと……。

「体験したほうが『哲学対話』が分かります」とのお勧めで、ママではないけれど「ママ's カフェ」に参加しました。

席に着くと、保育中の子どもがママに「ご馳走どうぞ」。授乳やおむつ交換はいつでもOK。その間も話は淡々と進んでいきます。今回のルールは「何でも話していく」「人のことは非難しない」「黙っていていい」「分からなければ質問をする」「考えるなどを楽しむ」「自分のことを話す」の6つでした。

次はテーマに当たる「問い合わせ」を決めます。各人の悩みを「問い合わせ」の文體に作り直していくと、不思議なことにごちゃごちゃしていた悩みが整理されて、



△ 話す人は毛糸玉を持ちます。次の人は……

考える準備ができます。発言は毛糸玉を持って一人ずつ。疑問に思えば尋ねればいいし、噂話をするなどルールを外してしまったら戻ればいい。ルールは窮屈ではなく、考えを深めるガードのようでした。答えを出すことが目的ではないと知りつつ、正解を探しがちですが、探っていくには時間は短く、モヤモヤを持ち帰ることになります。それがまた“考える自分”をつくってくれるようです。「悩みと考えることを分ける道筋が見えてくる」哲学対話の魅力をこう表現していました。

代表の尾崎さんが「自分が地元で開いて子育て中のママの場にしよう」と会を立ち上げたのは2014年のこと。「哲学対話」の場に、都心まで子どもを連れて行くのが厳しくなったから。翌年、小平市市民活動支援公募事業での開催をきっかけに次第に知られるようになってきました。11月12日は小学生(1~3年)と親対象の「子ども哲学」を開く予定だそうです。 (R)

DATA

活動日●月に1回程度

連絡先●hanakophilosophycafe@gmail.com

<https://www.facebook.com/hanakophilosophycafe/>

特定非営利活動法人 こだいら自由遊びの会

自由という言葉は遣い方が難しい。人は簡単に自由を口にするけれど、それが本当に自由なのか、束縛のない、管理されない、真の意味で自分の気持ちのままの形なのか、を考えると、殆どの自由が疑わしくなってくる。

「NPO法人こだいら自由遊びの会」の代表足立さんが、この会をつくろうと思ったのは5人の子どもの末っ子が、ほかの兄弟達と同じ遊び場に行くのを嫌がったから。末っ子には彼の行きたい、自由に過ごせる場所をつくってやらなくてはと思ったそうです。

1997年に冒険遊び場づくり協会の全国大会に参加して、同じようなことを考えている仲間達と知り合い、とりわけ町田、清瀬、日野の人たちとは気持ちが通じ合って、タマブレイパーク連絡会(通称タマタマ)を結成。遊び場に必要な道具を共同購入することができました。

団体の初期の活動場所は、小平市の旧子どもキャンプ場。「緑が多くて人の手が余り入ってなくて、いろんな遊びができるいい所だったけど、土地の移転で使えなくなってしまったので、中央公園横の林に移ったの。でもここも50年前の道路計画に引っかかって、半分にされて」と足立代表。

「考えてみれば、この会の活動場所はなぜか行政が奪ってしまう。子どもたちの遊び場を商業的な遊びから守るために活動なのに、なんか皮肉だよね」



△ 何かできるわかんないナビ、楽しそう

取材当日は半分になってしまった林で夏休みのイベントがあり、子どもは穴を掘ったり、ターザンロープにぶら下がったり、ちゃんとごっこをしたり楽しそう。見あげれば背の高い木々が風に揺れて、緑を抜ける涼風が暑さを忘れさせてくれます。

「自由に過ごせる場所を提供するのが大人の役目。難しいこともあるけど、ここでんびり子どもと過ごすのが最高なんだよね」足立さんの話には本当の自由意志がありました。 (K)

DATA

活動日●月1回位

活動場所●中央公園東側の雑木林、子どもキャンプ場

連絡先●kodaira.jiyuuasobi@gmail.com

<http://plaza.rakuten.co.jp/kodairaplaypark/>